

## 第35回浜松市民レクリエーション・スポーツ大会審判講習会 確認事項

### ◎ ファミリーバドミントン

- ・ サーブについて
  - ⇒サーブを行った時点で、片方の足が床に接していればOKとする
  - ⇒サーブの動作の際、踏み込んだ脚と同時にサーブを行うのはフォルトとする
- ・ 決勝大会の試合中にケガをして規定メンバー数を満たせなくなった場合について
  - ⇒発生した時点で、試合をオープン参加扱い（不戦敗）とする
- ・ 互審の役割分担について
  - ⇒決勝大会では、出場チームの選手に「主審」「副審」を担当してもらう
  - ⇒決勝大会では、競技役員（「スポーツ推進委員」「地域スポーツ指導者」）に線審・得点係・連絡係を担当してもらう

◎ スーパードッジ

- ・ はちまきの取扱いについて

⇒ヒットされた選手は、近くにいる主審もしくは副審に手渡しする  
(試合終了後にチームに返却できるように取りまとめる)

- ・ 競技規則の表記変更について

⇒「P4 3.競技 ①ゲーム」13」

訂正前) 競技時間は7分間とする。(作戦タイム以外はランニングタイム)

訂正後) 競技時間は7分間とする。(ランニングタイムで計測するが、選手交代時と作戦タイムは競技時間に含めない)

⇒「P6 3.競技 ④ヒットについて」11」

追 加) ヒットされた後にラインクロスをした場合は、ヒットを優先する

⇒「P6 3.競技 ⑤試合中の反則」16」

削 除) 内野選手がボールを当てられた勢いで外野に出てしまった場合、ラインクロスとなり相手の内野ボールとなる。当てられた選手については、  
ボールを捕球していればセーフ、落とした場合はアウト。

⇒「P6 3.競技 ⑤試合中の反則」110」

訂正前) ただし、ヒットを避けるため故意に頭を出して当りに行った場合は、ヒット扱いとする

訂正後) ただし、ヒットを避けるため故意に頭を出して当りに行った場合は、ゲーム全体で1回目は警告、2回目以降はヒット扱いとする

⇒「P4 4.その他」11」

訂正前) ※《遅延行為》優位にあるチームの選手の遅延行為を禁止する

訂正後) ※《遅延行為》選手の遅延行為を禁止する

◎ ビーチボール

- ・ アウト・オブ・バウンズについて  
⇒ボールが支柱本体に触れた場合は、アウト・オブ・バウンズとなる（ボールが支柱に触れたかどうかをしっかりと確認する）  
⇒サーブについても、いずれかのラインにボールの一部が想像延長上のラインにかかっている場合は、アウト・オブ・バウンズにならない
- ・ サーブ時のプレーヤーの位置について  
⇒両チームの選手は、2人ずつ2列に位置する。（競技規則 P8②のとおり）  
田の字の陣形をしっかりと作ること
- ・ 試合開始前の整列について  
⇒ネットを正面に見て左側よりサーブ順「NO.1」「NO.2」「NO.3」「NO.4」（競技規則 P8①の記載）の順に整列する
- ・ ネットインについて  
⇒1回の攻撃権の中で、同一選手が3回プレーすることはできない
- ・ サーブについて  
⇒サーブの打球に回転をかけても良い（ただし、サーブトスには回転をかけてはならない）
- ・ 互審の役割分担について  
⇒決勝大会では、出場チームの選手に「主審」「副審」を担当してもらう  
⇒決勝大会では、競技役員（「スポーツ推進委員」「地域スポーツ指導者」）に線審・得点係・連絡係を担当してもらう